



本日はよくお参り下さいました

桜の花が次々と咲く中、いよいよ本日4月1日11時30分に新元号が発表されます。私どもは御代替わりが行われることが発表されてから、今日まで、次の元号についての情報を知ることなく過ごしてきました。このようなことは今までになかったことでした。ワクワクする方もいれば、ソワソワする方もいたかもしれません。新しい元号が発表されたらホッとするのか驚くのか、これを書いている今は想像が付きませんが、発表前の今が一番、国民の元号への関心が高まっている時なのかもしれません。いよいよ来月に迫った御代替わりを、昭和から平成のときのように悲しみの中ではなく喜びに包まれながら迎えられることはとても幸せなことですね。平成の御代に感謝しつつ、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。権禰宜 道子



平成から次の御代へ

4月

1日・15日 月次祭(つきなみさい) 皇室の弥栄と国家安泰、氏子崇敬者並に社会の幸福と平和を祈ります。

5日 清明(せいめい) 清明は「清浄明潔」を略したもので、春先の清らかで、生き生きとした様子をいったものです。この頃になると、春の気配に包まれ、桜や草木の花が咲き始め、空は晴れ渡り、のどかな日々となります。

20日 穀雨(こくう) 穀雨とは、百穀を潤す春雨をいいます。この頃は、春雨が降る日が多くなり、田畑を潤して穀物などの種子の生長を助けるので、種まきの好機をもたらします。

29日 昭和の日 昭和天皇の「天皇誕生日」。昭和天皇が崩御された後「みどりの日」と改称されるも、国民有志の願いにより「昭和の日」へと再改称されました。生物学者であり、自然をこよなく愛された昭和天皇は敗戦によって荒廃した国土に緑を取り戻す活動にも、お力を注がれました。昭和に思いを馳せる日です。



30日 退位の日 前日と翌日が祝日となるため祝日法第3条第3項により休日となります。

天神さまの豆知識

—豊作を祈る花見—

現在のように敷物を敷いて一席を設け花を愛でながら飲食を楽しむようになったのは江戸時代以降のことです。このような花見の風習はもともと農作業の開始の目安となる桜の開花にちなんで行われてきた農耕儀礼が発展したものだと考えられます。「桜」という言葉の語源を見ると、「サ」は「稲の霊」「クラ」は「神座(かむくら)」を表すといわれます。つまり、古代の日本人は桜の花に神意を見出し、咲き具合によって、その年の豊凶を占ったというわけです。花見の宴には豊作を願う人々の思いが込められて

いるので
す。参考文
献『神道とし
きたり』茂木
貞純監修



今月の言葉

あめつち
『天地の神にぞ祈る
朝なきの海のごとくに
波たたぬ世を』

昭和天皇御製(昭和八年)

私は天地あめつちの神に、朝の風のない穏やかな海のように波だたぬ平和な世の中を求め祈っている。

昭和天皇がこの和歌を詠まれた年は満州事変(一九三一)の翌々年で、今上天皇の生まれた年です。この和歌から昭和天皇の当時の苦悩と御心が痛いほど伝わります。御身の考えのみで国を御せなかつた昭和天皇は、古代からの天皇と同じく、人々が平和で安心できる国であることを祈っていました。今上天皇のお姿にも、その御心を見いだすことができます。

引用・参考『神道のことば』武光誠監修 平成二十六年六月(株)河出書房発行

